

# 何でも読もう会

書物名	『花火』『銀座界限』 永井荷風	開催 日時	2022.3.1	推薦	
巻・章	全編		Zoom	出席者	8名
<p>荷風の短編集の中から2編を読んだ。</p> <p>『花火』大正8年稿</p> <p>東京市欧州戦争講和記念祭の花火の音を聞きながら、過ぎし日の行事・騒擾事件を回顧している。荷風には、明治になって、上から強いられた提灯行列や万歳斉唱なるものがなじめず、皮肉を言っている。また大逆事件（明43）に対し、自分も回りの文人も声を上げることが出来なかった情けなさから、自分は政治問題に目をつぶり、江戸趣味に走ったと赤裸々に延べている。読者の共感を誘った。</p> <p>自分は江戸趣味と言いながら、明治の政治的社会的問題をきちんと披露しており、さすがとの声。</p> <p>『銀座界限』明治44年稿</p> <p>20～30年前までは平屋か二階家の木造家屋がひしめいていた銀座が変貌していく様子を独自の筆致で紹介している。</p> <p>デパートの前身の天下堂なる大きなビルの三階から眺めた銀座界限の有名店を紹介し、更に品川、芝あたりまで遠望する。ホテル、洋食屋、劇場、カフェなどが明治後期に盛んに出来ているのが描かれる。しかし、それよりも自分は新橋駐車場の待合所が心落ち着くと述べるあたりはやはり荷風先生だ。</p>					